

平成 16 年度

都立高入試の概況

平成 16 年 3 月

新教育研究協会

平成 16 年度 都立高入試の概況

平成 16 年度の都立高入試は、単独選抜以来もっとも厳しい入試だった前年度と同様、約 9,500 人、受験者の 22.6%の不合格者をだして終了いたしました。

1. 募集人員

就学計画

東京都では、平成 15 年度（平成 16 年 3 月卒業）の公立中学校卒業予定者数 **77,361 人**（平成 15 年 5 月 1 日現在）に対し、計画進学率を例年通り **96.0%**として表 1 の就学計画を立てました。

これにより、都立高校の受け入れ枠は前年度より 400 人少ない **42,300 人**になりました。

表 1 平成 16 年度就学計画

		16 年度	15 年度	14 年度	13 年度	12 年度
卒業予定者	A	77,361	78,263	79,491	82,744	85,872
計画進学率	B	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
進学者	C=(A * B)	74,300	75,200	76,400	79,500	82,500
国立・他県進学者	D	3,300	3,400	3,500	3,900	4,300
都内公私受け入れ分	E=(C - D)	71,000	71,800	72,900	75,600	78,200
都内私立受け入れ分	F	28,700	29,100	29,500	30,600	31,600
都立高校受け入れ分	G=(E - F)	42,300	42,700	43,400	45,000	46,600

この 42,300 人に他県・国立中からの入学予定者を加え、転勤枠や高専の入学者枠を除くと、平成 16 年度の全日制一般募集の募集人員(推薦入学含む)は前年度より 528 人少ない **42,801 人**になりました。

表 2 全日制募集概要

科名	学校数	学級数	募集人員				計
			一般募集	転勤者枠	転学者枠	9月入学	
普通科	133	845	33,360	163	251	6	33,780
農業科	6	21	750				750
水産科	1	1	35				35
工業科	22	113	3,955				3,955
商業科	17	93	3,255				3,255
家庭科	4	8	288	1	1		290
芸術科	1	2	80				80
保健体育科	1	1	40				40
国際学科	1	6	225			15	240
併合科	3	3	105				105
総合学科	3	18	708	6	6		720
全日制計	192	1,111	42,801	170	258	21	43,250

<注>学校数は併設校を含めた延べ学校数

新設校・募集停止校・学級減

(1) 16年度新設校

都立高校改革推進計画もいよいよ本格化し、今年度は次の5校が開校しました。

学校名	学科	学級数	備考
上水	単位制普通科	6	武蔵村山東と砂川の統合校
六郷工科	単位制工業科	5	港工, 羽田, 羽田工, 鮫洲工の統合校 全日制のほかに定時制とデュアルシステム科がある
千早	商業科	6	牛込商業と池袋商業の統合校
杉並総合	総合学科	6	桜水商業と永福の統合校
大江戸	定時制総合学科	5	チャレンジスクール

(2) 募集停止校

一方、同じく都立高校改革推進計画により全日制では次の6校が募集停止となりました。

学校名	学科	学級数	備考
一橋	普通科	4	平成17年度より千代田地区昼間定時制高校
忍岡	普通科	4	平成18年度より台東地区単位制高校
北野	普通科	4	平成19年度より板橋地区単位制高校
砂川	普通科	6	平成17年度より多摩地区単位制高校
青梅東	普通科	3	平成18年度より青梅地区総合学科高校
本所工業	工業科	4	平成19年度より葛飾地区総合学科航行
合計6校 25学級			

(3) 学科廃止

(2)と同様の理由で、次の高校の学科が廃止となりました。

学校名	学科	学級数	備考
農林	農業科	1	農業土木科と家政科
	家庭科	2	平成18年度より青梅地区総合学科高校
上野忍岡	商業科	2	平成18年度より台東地区単位制高校
合計2校 5学級			

2. 校長会志望予定調査

平成15年12月15日(月)時点での「都立高校全日制志望予定(第1志望)調査」によると、全日制都立高校を第1志望とした人の割合は**72.95%**、前年度(73.64%)より下がったものの、学校名未定者が例年になく多い年になりました。

表3 志望予定調査の志望率の推移

年度	男女	卒業予定者数 A(人)	全日制高校					Bのうち都立高校					
			全日制高校志望予定者数 B			全日制進学志願率 B/A		都立高志望者数 D		都立高志望率 D/(B-C)			
			C Bの内学校名未定者										
16	男	40,537	77,406	38,347	73,371	1,258	2,297	94.60	94.79	25,941	51,845	69.94	72.95
	女	36,869		35,024	(74,378)	1,039		95.00	(96.09)	25,904	(52,718)	76.22	(73.14)
15	男	41,267	78,313	39,101	74,313	935	1,638	94.75	94.89	26,865	53,521	70.39	73.64
	女	37,046		35,212	(75,021)	703		95.05	(95.80)	26,656	(54,113)	77.24	(73.74)
14	男	41,825	79,483	39,440	75,137	1,097	1,897	94.30	94.53	26,974	53,028	70.35	72.40
	女	37,658		35,697		800		94.79		26,054		74.66	
13	男	43,643	82,744	41,224	78,422	1,006	1,745	94.46	94.78	28,463	56,049	70.77	73.10
	女	39,101		37,198		739		95.13		27,586		75.66	
12	男	45,513	86,021	42,796	81,341	1,053	1,699	94.03	94.56	29,887	58,402	71.60	73.33
	女	40,508		38,545		646		95.15		28,515		75.24	

<注>B欄には高等専門学校の志望者も含む

平成15,16年度の()は昼夜間定時制高校・通信制高校で、全日制と同様な時間帯で履修を志望している生徒を含む数値

また、学科別志望倍率の推移を見ると次の表のようになり、普通科の志望倍率が下がり、商業・工業志望率が上がって前年度と逆の志望状況になっています。

表4 志望予定調査の学科別志望者数の推移

学科等	事項	募集人員	志望者数	倍率	志望調査倍率				
					15年度	14年度	13年度	12年度	11年度
普通科	男	15,465	18,809	1.22	1.26	1.22	1.24	1.25	1.25
	女	14,042	18,954	1.35	1.39	1.33	1.36	1.32	1.32
	コース	1,423	1,471	1.03	1.09	1.03	1.01	1.06	1.09
商業科		3,147	3,367	1.07	0.95	0.96	1.09	0.98	0.97
工業科		3,406	3,723	1.09	1.01	1.09	1.01	1.06	1.10
科学技術		210	203	0.97	1.04	0.57	1.25	-	-
農業科		750	939	1.25	1.25	1.31	1.21	1.28	1.40
水産科		35	40	1.14	1.35	1.40	1.38	1.85	1.48
家庭科		288	320	1.11	1.24	1.32	1.30	1.49	1.47
芸術科	美術	40	47	1.18	1.63	1.55	2.13	1.98	1.68
	音楽	40	43	1.08	0.75	0.95	1.18	1.18	0.85
保健体育科		40	101	2.53	3.30	2.75	2.93	2.98	2.90
国際学科	一般	160	309	1.93	1.99	1.23	1.52	1.73	1.99
	海外帰国	45	52	1.16	1.42	1.09	1.00	1.11	1.27
	在京外国	20	30	1.50	1.65	1.55	2.67	1.67	2.13
併合科		105	15	0.14	0.13	0.24	0.29	0.23	0.28
単位制普通科		1,656	2,009	1.21	1.18	1.16	0.81	1.14	1.61
単位制工業科		175	104	0.59	-	-	-	-	-
総合学科		708	902	1.27	1.34	1.17	1.44	1.50	1.68
合計		41,755	51,438	1.23	1.25	1.21	1.24	1.23	1.24
海外帰国	普通科	114	53	0.46	0.33	0.34	0.25	0.37	0.40
	商業科	10	7	0.70	0.10	0.10	0.10	0.40	0.50
	工業科	10	0	0.00	0.30	0.30	0.50	0.60	0.30
高等専門学校		400	443	1.11	1.15	1.25	1.08	1.27	1.36

新設校の上水（0.88倍）、千早（0.66倍）、六郷工科（全日制計0.59倍）の3校が定員割れとなり、杉並総合（1.37倍）、大江戸（2.89倍）と明暗を分けました。

一方で「国立・私立・他県公立」志願者が19,229人24.84%となり、前年度の24.46%とほぼ同じ志望率になっています。

3. 都立推薦入試「1月29日（木）」

推薦入試の改革

今年度の入試改革はおもに推薦入試について行われました。その概要は次の通りです。

- (1) 「文化・スポーツ等特別推薦」を導入する。
 - (2) 学校の個性化・特色化の推進、校長の学校経営への支援、推薦入試における高倍率の緩和のため一部の高校で推薦枠を拡大する。
 - (3) 絶対評価の観点別学習状況（ABC）を点数化して選抜の資料とすること。
- 以上の改革の効果なども検証しながら、今年度の推薦入試状況を見ていきます。

推薦出願状況

推薦入試は相変わらず激戦 文化・スポーツ等特別推薦は2.02倍

推薦入試の募集人員10,179人に対し応募者数は33,164人、応募倍率は3.26倍となり、前年度の3.42倍にはとどかなかったものの、普通科に推薦入試が導入された平成7年度と同じ倍率になり非常に高い応募倍率となりました。

学科別で見ると普通科は男女とも前年度より下がり、商業科・工業科などは上がって、校長会予備調査の結果を反映するものになりました。

予備調査の時点では定員割れで不調だった新設校の上水は2.08倍、千早は3.02倍、六郷工科は1.52倍（ただし、外工学が定員割れ）と入試本番になって倍率が上がりました。もちろん杉並総合も2.98倍と高い人気ぶりを示しました。

一方、新設された「文化・スポーツ等特別推薦」は全体の募集人員121人に対し応募者245人、応募倍率は2.02倍となりました。

三田「英語」5.60倍、城東「硬式野球」5.50倍、八王子北「硬式野球」6.67倍などが高倍率になった一方で、城東「薙刀」、葛西南「囲碁」、第五商業「弓道」など応募者がいなかった種目もありました。

表5 推薦入試学科別応募状況

学科	募集人員	応募者数	倍率	前年倍率
普通科	5,938	22,543	3.80	4.05
コース制	720	1,313	1.82	2.00
単位制	712	1,685	2.37	2.30
普通科計	7,370	25,541	3.47	3.70
商業科	777	2,655	3.42	2.98
工業科	1,042	2,353	2.26	2.20
工業科 (単位制)	86	131	1.52	-
科学技術科	105	179	1.70	1.91
農業科	220	661	3.00	3.09
水産科	17	45	2.65	2.25
家庭科	86	278	3.23	3.53
芸術科	24	102	4.25	5.94
保健体育科	12	94	7.83	14.13
国際学科	80	275	3.44	3.13
併合科	-	-	-	0.14
専門学科計	2,449	6,773	2.77	2.66
総合学科	360	850	2.36	2.31
全日制計	10,179	33,164	3.26	3.42

また、学区撤廃後、旧他学区受験は増加しており、旧2学区は男女とも推薦応募者の5割以上が他学区からの生徒で占められています。

旧他学区からの応募者が一番多かったのは、男子は小平西で応募者の78.2%、女子は日比谷の76.9%でした。ベスト5は男女とも同じ顔ぶれで、そのうちの3校が旧2学区の高校です。

表6 旧他学区からの応募人員と割合

旧学区	男子				女子			
	応募人員	旧他学区 応募者数	割合	前年度	応募人員	旧他学区 応募者数	割合	前年度
旧1学区	831	217	26.1	24.4	1,092	317	29.0	31.8
旧2学区	886	460	51.9	45.1	1,156	642	55.5	50.2
旧3学区	1,045	326	31.2	27.0	1,280	489	38.2	32.7
旧4学区	923	285	30.9	25.4	1,241	494	39.8	35.4
旧5学区	795	178	22.4	22.4	1,083	319	29.5	26.5
旧6学区	1,325	149	11.2	7.2	1,560	200	12.8	10.1
旧7学区	1,162	185	15.9	12.2	1,464	256	17.5	15.5
旧8学区	1,044	175	16.8	18.6	1,255	273	21.8	20.3
旧9学区	976	254	26.0	25.6	1,335	407	30.5	28.2
旧10学区	943	303	32.1	29.6	1,147	455	39.7	33.7
合計	9,930	2,532	25.5	23.1	12,613	3,852	30.5	28.1

表 6 - 2 旧他学区からの応募割合が高かった学校

<男子>

順	学校名	応募人員	旧他学区 応募人員	旧他学区 応募割合
1	小平西	55	43	78.2%
2	日比谷	169	131	77.5%
3	駒場	164	114	69.5%
4	戸山	112	77	68.8%
5	青山	130	86	66.2%

<女子>

順	学校名	応募人員	旧他学区 応募人員	旧他学区 応募割合
1	日比谷	160	123	76.9%
2	小平西	101	70	69.3%
3	駒場	170	116	68.2%
4	戸山	99	67	67.7%
5	青山	203	136	67.0%

推薦合格者の状況

合格率は前年度並みの 30.7% , 普通科女子は 22.4%

文化・スポーツ等特別推薦の合格者は募集数に 25 人足りない 96 人

合格者数は 10,179 人, 合格率は 30.7% と前年度の 29.2% を若干上回りましたがそれでも厳しい入試に変化はありませんでした。

応募者数が定員に達しなかった練馬工業「電気」と小金井工業「電子機械」、六郷工科「プロダクト工学」は他学科から第二志望者を充足しました。

文化・スポーツ等特別推薦の合格者は 96 人, 募集人員の 121 人に 25 人足りませんでした。この不足分は一般推薦から充足しました。

観点別評価の選抜への影響

5 段階評価が低くても, 観点が高ければ合格

従来のように 5 段階評価で推薦入試の合否の可能性を占うことはできない

観点別の評価を点数化して選抜資料とするようになったため, 従来にない現象がおきました。

たとえば, 観点別評価で「A A A A」でも全体の達成状況によって評価で「4」になることがあり, 従来素点内申が低いから合格が難しいだろうと思われた生徒でも, 観点が高いため合格したケースがありました。

また, 9 教科 37 観点をそれぞれ点数化するため, 9 教科 5 段階評価より細分化され, 例えば同じオール 5 でも A の数によって合否が分かれるケースがありました。

このように 5 段階評価だけで推薦入試の合否の可能性を判断することが非常に難しくなりました。

4. 学力検査（第一次募集・分割前期募集）「2月24日（火）」

出願状況

ほぼ前年度並みの倍率だが、差し替え率は上昇
低倍率狙いの受験生が増加か

海外帰国学級募集分を除く一般募集人員 31,513 人に対し、出願初日の応募者数は 44,705 人、応募倍率は 1.42 倍、前年度の 1.43 倍とほぼ同じ倍率になりました。

願書差し替え状況を見ると、願書を取り下げた人は 2,871 人、応募者の 6.3%、前年度（5.7%）よりアップし前々年度の水準に戻りました。前年度は行きたい高校を選択し、今年度は行ける高校を選択したという傾向が伺えます。

最終的な応募者数は 45,420 人、最終応募倍率は前年度より 0.01 ポイント低い 1.44 倍になりました。応募倍率はここ 5 年間ほど安定しています。

受験状況

受験倍率 1.33 倍と前年度に引き続き高倍率入試（抜けない応募者 - 棄権率は最低）
普通科はダウン、商業科・工業科がアップ
倍率の平準化が見られ 2 倍を超える高校が減
進学指導重点校や特色ある高校は人気を維持
旧他学区受験はますます活発に、都心から遠方の高校への押し出し現象も

2月24日（火）の学力検査に臨んだ全日制の受験者数は 41,841 人、受験倍率は 1.33 倍になり単独選抜以降で最高、1986 年度以降でも最高を記録した前年度と同じ倍率になりました。

受験棄権者数は 3,579 人棄権率は 7.9%と、1982 年度以降最低となった前年度（8.6%）よりさらに低い棄権率になりました。

学科別の受験状況は次の表の通りで、普通科が下がったものの、商業科・工業科・農業科の倍率がアップしています。特に商業科はリーディングコマースハイスchoolの指定を受けた芝商業、第一商業をはじめ高倍率になった学校が多く、商業科全体として 1.34 倍と近年にない高倍率になりました。

しかし、工業科や農業科の倍率は前々年度よりは低く、学区撤廃と絶対評価の影響で普通科志向が高まった前年度の反動がでただけと見ることもできるでしょう。

全体の倍率が下がった普通科高校では、学校間の倍率格差がやや緩和され、2 倍を超える高校が日比谷「男子」、玉川「女子」、足立東「女子」、足立新田「女子」、秋留台「男女」の 5 校に留まりました。人気校の駒場、向丘、東、小平は高い倍率は確保しているものの例年の異常なほどの人気ぶりは影を潜めています。

進学指導重点校は、多くが倍率ダウン。青山・立川・国立と自校作成問題新規実施校は、軒並み前年度より倍率を下げました。しかし、日比谷「男子」、西「男子」は高倍率での入試になり、青山も下げ

たといっても高倍率で、重点校の人気は総じて確保されているとみていいと思います。日比谷は、都内全域から生徒が集まる都立トップ校への道を歩み続けています。

また、進学重視型の単位制高校である新宿はきめ細かい学習指導と冷暖房完備の新校舎によって大幅に倍率アップ。国分寺も若干下がったものの人気を維持、墨田川も1倍を超えました。

先に少し触れたエンカレッジスクールの足立東と秋留台、総合学科で新設校の杉並総合、大江戸（チャレンジスクール）、開校2年目の単位制高校の芦花など特色ある高校でも高倍率になった学校が目立ちました。

表7 一般入試学科別受験状況

学科	募集人員	受験者数	倍率	前年倍率	前々年
普通科	23,190	30,740	1.33	1.36	1.26
島嶼	380	217	0.57	0.49	0.55
コース制	703	987	1.40	1.48	1.41
単位制	944	1,389	1.47	1.33	1.23
普通科計	25,217	33,333	1.32	1.35	1.25
商業科	2,370	3,164	1.34	1.17	1.20
工業科	2,364	3,125	1.32	1.21	1.35
工業科 (単位制)	89	113	1.27	-	-
科学技術科	105	120	1.14	1.33	0.77
農業科	530	761	1.44	1.37	1.52
水産科	18	30	1.67	1.85	1.5
家庭科	202	280	1.39	1.39	1.55
芸術科	56	87	1.55	1.45	1.64
保健体育科	28	85	3.04	3.47	2.59
国際学科	80	215	2.69	3.18	1.70
併合科	105	13	0.12	0.08	0.26
専門学科計	5,947	7,993	1.34	1.24	1.31
総合学科	349	515	1.48	1.62	1.35
全日計	31,513	41,841	1.33	1.33	1.26

表8 重点校等の受験倍率

<進学指導重点校>

学校名	男子		女子	
	16年度	15年度	16年度	15年度
日比谷	2.44	2.05	1.85	2.00
戸山	1.32	1.51	1.18	1.46
青山	1.59	1.89	1.92	1.94
西	1.99	1.66	1.32	1.43
八王子東	1.27	1.25	1.25	1.32
立川	1.32	1.72	1.27	1.61
国立	1.33	1.74	1.58	1.67

<進学重視型の単位制高校>

学校名	16年度	15年度
新宿	1.73	1.30
墨田川	1.19	1.28
国分寺	1.36	1.44

<単位制普通科>

学校名	16年度	15年度
芦花	1.92	1.34
飛鳥	1.29	1.23
上水	1.31	-

<総合学科>

学校名	16年度	15年度
晴海総合	1.39	1.51
つばさ総合	1.36	1.73
杉並総合	1.68	-

<チャレンジスクール>

学校名	16年度	15年度
桐ヶ丘	2.53	3.65
世田谷泉	2.59	2.97
大江戸	4.36	-

学区撤廃2年目を向かえ、推薦入試同様旧他学区からの受験生は順調に増えています。下記の表にあるように、都心の高校に集中する傾向は相変わらずで、新宿区・目黒区・渋谷区が属した旧2学区は全受験生の半分近くが旧他学区からの受験生で占められています。また、多摩エリアでは、八王子市の旧7学区や旧9学区からの受験生が多い旧10学区の他学区受験者が多くなっているのが目に付きます。受験生や進学指導を担う先生方の、学区にとられない幅広い範囲からの志望校選択が定着しつつあるといえるでしょう。

表9 旧他学区からの受験者と割合

旧学区	男子				女子			
	受験者数	旧他学区 受験者数	割合	前年度	受験者数	旧他学区 受験者数	割合	前年度
旧1学区	1,249	415	33.2	30.3	1,262	432	34.2	33.0
旧2学区	1,366	646	47.3	39.0	1,462	728	49.8	47.8
旧3学区	1,784	554	31.1	24.5	1,705	643	37.7	33.2
旧4学区	1,292	357	27.6	22.4	1,483	553	37.3	32.9
旧5学区	1,065	277	26.0	24.4	1,260	397	31.5	27.5
旧6学区	1,762	215	12.2	8.6	1,814	263	14.5	11.2
旧7学区	1,993	263	13.2	11.6	1,899	312	16.4	14.7
旧8学区	1,527	302	19.8	18.9	1,496	368	24.6	23.0
旧9学区	1,615	421	26.1	21.2	1,685	519	30.8	28.6
旧10学区	1,508	543	36.0	30.1	1,513	649	42.9	37.1
合計	15,161	3,993	26.3	22.5	15,579	4,864	31.2	28.5

しかし、その一方で旧学区別受験倍率は平準化しており、都心に住所がある生徒が周辺地域から受験生が流れ込んでくるため、地元の高校を諦めて、遠方の高校を受験する「押し出し現象」が加速している現状も伺えます、次の表10を見ても旧1・2・4学区の倍率が下がり、旧5・6・7学区の倍率が上がっています。

表10 旧学区別受験状況

旧学区	男子				女子			
	定員	受験	倍率	前年	定員	受験	倍率	前年
旧1学区	966	1,249	1.29	1.38	877	1,262	1.44	1.65
旧2学区	1,032	1,366	1.32	1.43	935	1,462	1.56	1.74
旧3学区	1,357	1,784	1.31	1.33	1,232	1,705	1.38	1.45
旧4学区	1,074	1,292	1.20	1.34	972	1,483	1.53	1.64
旧5学区	926	1,065	1.15	1.12	838	1,260	1.50	1.36
旧6学区	1,470	1,762	1.20	1.15	1,333	1,814	1.36	1.28
旧7学区	1,567	1,993	1.27	1.16	1,424	1,899	1.33	1.32
旧8学区	1,197	1,527	1.28	1.27	1,087	1,496	1.38	1.44
旧9学区	1,408	1,615	1.15	1.24	1,280	1,685	1.32	1.51
旧10学区	1,162	1,508	1.30	1.25	1,053	1,513	1.44	1.40
計	12,159	15,161	1.25	1.26	11,031	15,579	1.41	1.47

合格者の状況

不合格者数は約9,500人、2年連続で受験生の2割を超え激戦になった
 不合格者の学力層は前年度の中堅上位から中堅下位に移行
 商業科・工業科も不合格率は2割を突破

41,841 人の受験者の内、合格者数は **32,375 人**、実質競争率は **1.29 倍** で不合格者数は受験生の 22.6% を占める 9,466 人。前年度と同様非常に厳しい入試になりました。

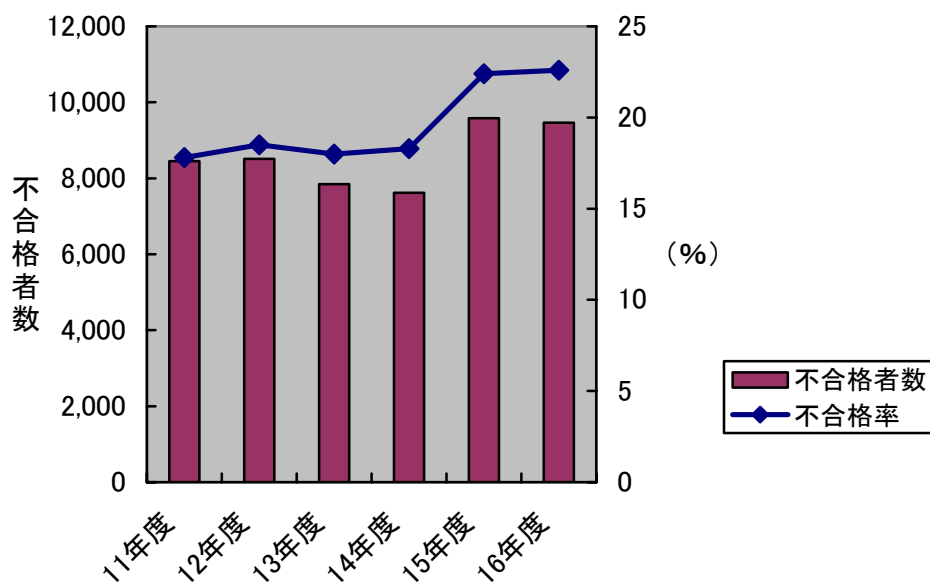
ただし、不合格者の学力層は前年度より下位の方向へ移っています。前にも触れたように今年度の受験者が前年度より慎重に志望校選択をした結果といえるでしょう。同時に商業科・工業科・農業科の不合格率はいずれも上昇。この学力層にとっても厳しい入試になりました。

16 ページからの旧学区別の不合格状況を見ると、旧第 5・6・7 学区で増加、旧第 1・2・4 学区で減少していることがわかります。これも前年度都心の学区が激戦になった反動で、受験生が低倍率校狙いに動いた結果と考えることができます。

入学辞退率は 1.2%、年々減少しており都立第一志望の生徒が多く受験していることがわかります。

旧学区に属する普通科は、前年度同様「男女別定員制の緩和」のため、男子の合格者数が定員(12,159 人)より少ない **11,974 人**、女子(定員 11,031 人)が 1,027 人多い **12,058 人** と、男女比が定員時 52.4 : 47.6 から合格時 **49.8 : 50.2** と逆転しました。

不合格者数と不合格率の推移



	11 年度	12 年度	13 年度	14 年度	15 年度	16 年度
不合格者数	8,455	8,515	7,845	7,618	9,583	9,466
不合格率	17.8	18.5	18.0	18.3	22.4%	22.6%

5 . 学力検査（第二次募集・分割後期募集）「3月10日（水）」

募集人員

二次募集はほとんどなし。分割募集の制度により募集規模を確保
欠員補充の二次募集は1名，2名の募集が目立つ

全日制の第二次募集・分割後期募集の募集人員は1,213人で，前年度より48人減でした。第一次募集で欠員が例年より少なかったため，全体の募集数に対する分割後期募集の占める割合が前年度の67.9%から75.2%へと急増しています。分割募集という制度がなければ，二次募集の規模は小さくなっていただと思われます。

分割募集校以外の二次募集実施校は普通科高校では，大森2名，荻窪1名，淵江2名，立川1名，南平1名，久留米2名，白鷗「理科」2名，狛江「自然科学」1名，清瀬東「看護医療」1名の9校13名だけでした。

出願状況

応募者が殺到。全体に高倍率になった。
立川は55倍，南平も21倍という異常な状況

3月5日（金）の応募者数は2,544人，応募倍率は2.10倍，前年度の1.74倍から大幅にアップしました。願書を取り下げた人数は87人，再提出者が94人（定時制総合学科からの再提出者含む）で9日（火）の最終応募人員は2,551人となりました。

荻窪の7倍をはじめ，立川55倍，南平21倍，白鷗「理科」26倍と異常な高倍率になった学校もありました。

学科別の最終応募状況は次の通りです。

表 11 分割後期募集・第二次募集最終応募状況

	校数	募集 人員	最終応募人員			応募 倍率
			男子	女子	計	
普通科		809	799	939	1,738	2.15
(コース以外)	27	(798)	(680)	(780)	(1,460)	(1.83)
コース制	[5]	51	96	69	165	3.24
	4	(49)	(49)	(62)	(111)	(2.27)
普通科計	[32]	860	895	1,008	1,903	2.21
	31	(847)	(729)	(842)	(1,571)	(1.85)
商業科		103	102	180	282	2.74
	5	(113)	(93)	(141)	(234)	(2.07)
工業科		158	335	31	366	2.32
	6	(190)	(308)	(42)	(350)	(1.84)
農業科		0	0	0	0	-
	0	(1)	(3)	(2)	(5)	(5.00)
家庭科		0	0	0	0	-
	0	(1)	(4)	(3)	(7)	(0.00)
芸術科		0	0	0	0	-
	0	(3)	(3)	(1)	(4)	(1.33)
併合科	[3]	92	0	0	0	0.00
	0	(96)	(0)	(2)	(2)	(0.02)
専門学科計	[14]	353	437	211	648	1.84
	11	(414)	(425)	(196)	(621)	(1.50)
全日制計	[46]	1,213	1,332	1,219	2,551	2.10
	42	(1,261)	(1,154)	(1,038)	(2,192)	(1.74)
総合学科		75	256	279	535	7.13
(定時制)	3	(51)	(144)	(234)	(378)	(7.41)
※[]内は延べ学校数						
※()内は前年度の数						

6. 来春（17年度）の都立高入試について

募集停止校

平成17年度入試では全日制高校の次の高校が適性化計画により募集を停止する予定になっています。

募集停止予定校	学科
荻窪	普通
志村	普通
水元	普通
清瀬東	普通
久留米	普通
農林	園芸，食品製造，林業
向島工業	機械，電気，化学
砧工業	機械，電子技術，応用化学
八王子工業	機械，電気，工業化学，カラーリングアーツ，応用デザイン
台東商業	商業
向島商業	商業
四谷商業	商業，情報処理
第二商業	商業，情報処理

開校予定校

新たに次の高校が開校する予定になっています。

新高校	設置場所
大森地区単位制高校	旧大森東
港地区チャレンジスクール	旧城南
千代田地区昼間定時制高校 (通信制併置)	旧一橋
練馬地区単位制高校	旧大泉北
台東地区中高一貫教育校 (併設型)	旧白鷗
八王子地区単位制高校	旧館
多摩地区単位制高校 (トライネットスクール)	旧砂川
稲城地区総合学科高校	旧稲城

17年度入試の展望

入試選抜方法の多様化，単位制高校や総合学科高校，昼間定時制高校など特色ある高校の誕生，進学指導重点校や重点支援校，学力向上フロンティアハイスクールなど東京都や文部科学省からのバックアップ，交通網の整備，そして校長の強力なリーダーシップによる校内改革，などのさまざまな要素が絡み合って都立高人気は衰えることを知りません。

しかし，その一方で受験生は本当に自分に合った志望校選択をしているのでしょうか。絶対評価の高い内申により学力を過信し本来の学力以上の高校を選択したり，家庭的な理由を含め，どうしても都立を希望するため，自分の学力より不当に低い高校を選んだり，低倍率傾向が続いている高校や，隔年現象で倍率ダウンを狙って受けるなど，学力を無視した志望校選択をしている生徒が多くいるのではないのでしょうか。

現在は，都立高校も全校ホームページを開設しましたし，塾の先生を対象とした説明会を行う高校も増えてきました。また，受験生を対象とした体験授業や学校説明会，入試相談会など従来より活発に行っているうえ，「期待する生徒の姿」を公表するなど高校の特色を知る機会には恵まれています。学習活動や進路実績，学校行事，クラブ活動などの面から自分に合う高校を選ぶことはそれほど難しくない時代になってきています。

しかし，高等学校でもっとも重要なことは学習活動で，それを円滑に行うために入学試験を行い，同程度の学力を持っている生徒を選抜しているのです。

今の志望校選択はこの部分が疎かにされているという気がしてなりません。

来年度も今春と同様厳しい入試が予想されます。どうか，自分の学力を正確に把握し，その高校の学習活動についていけるのか判断をして志望校を決めてほしいと願っています。

< 志望校選択の流れ >

- 1．早い時期に目標とする高校を選ぶ
- 2．情報収集・HPのチェック，学校見学や説明会への参加で自分が3年間過ごすに足る高校がどうかを調べる。
- 3．現在の自分の学力で目標とする高校の合格の可能性を確認する。
(新教育のW合格もぎで確認)
- 4．不足している部分があれば早期に復習。
(あと何点足りないか確認)
- 5．三者面談や入試相談で高校を決定!
- 6．高校入試「学力検査日」全力を尽くそう!